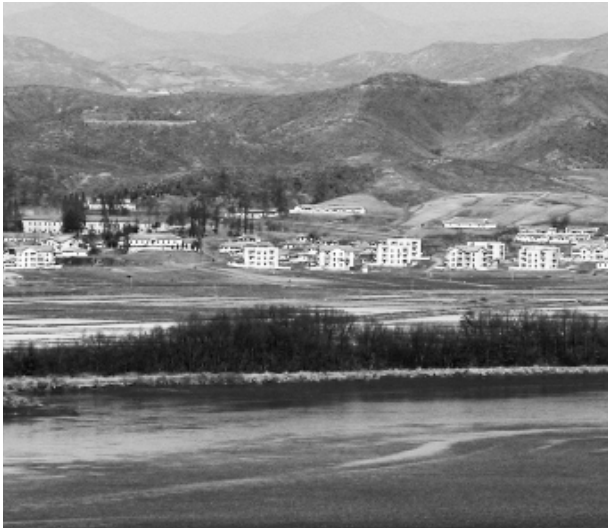




臨津江（イムジンガン）の向こうに見える北朝鮮の農村



遠藤さん

米朝首脳会談後の東アジア情勢

成蹊大学教授 遠藤 誠治

体制保証と核放棄約束

トランプ・金米朝首脳会談

米朝首脳会談後、東アジアは非核化と平和への道に進むのでしょうか。「具体策が乏しい」「北朝鮮はまた合意に背くのではないかなど」の否定論も聞こえてきます。首脳会談後の情勢をどう見るのか、遠藤誠治成蹊大学教授に寄稿していただきました。（見出しは編集部）

2018年6月12日、シンガポールでアメリカ大統領ドナルド・トランプと北朝鮮国務委員会議長金正恩との首脳会談が行われた。専門家や世論の中には、この会談やトランプ政権のアジアへの関与に懸念が強い。本稿では、そうした懸念を整理した上で、改めて米朝首脳会談のプラスの意義を示し、東アジアに安定的秩序を形成するために、現状に現れている傾向や可能性の中で何を重視すべきなのかを考えてみたい。

世界の注目を集めたシンガ

る。より詳細には、①新しい米朝関係の構築、②朝鮮半島の永続的で安定的な平和の仕組みの構築、③北朝鮮による朝鮮半島の完全な非核化を約束した板門店宣言の再確認、④戦争捕虜や行方不明兵士の遺骨の回収の努力が約束された。

会談後の会見で発表された内容を見て、多くの専門家は大きな問題があると考えた。とりわけ強い懸念が表明されたのは、「完全な非核化」が何を意味するのかが分からないという点である。北朝鮮が既に保有している核爆弾を解体

非核化具体策なし

会談の大きな問題点

すればよいのか、それとも核兵器関連施設を含めた核兵器開発・作成の能力を全面的に解体するのか、核兵器を開発する技術やノウハウをもって技術者や科学者の管理まで行うのか、などが不明なままである。さらに、核兵器は核爆弾とそれを運ぶ手段から成

その他にも、北朝鮮が保有しているとみられるウラン型爆弾とフルトニウム型爆弾の製造に必要なウランの濃縮活動、プルトニウムの製造が可能な原子炉の稼働などを、ど

軍事的脅しは棚上げ

「互いに信頼してみる」試み

筆者はそうした現状分析には妥当性があるものの、これまでのアメリカと北朝鮮の関係を前提とすると、シンガポール会談の成果は、別の角度からも理解されるべきだと考えている。それを一言で言えば、シンガポール会談を経て、トランプと金正恩は、「互いに信頼してみる」という試みに共同して乗り出した、ということである。そして、相手を信頼している間、軍事的な脅しによって問題を解決す

るという手段を棚上げにしたのである。

これまでの米朝関係には、互いに「奴らはいつでもわれわれを騙そうとする」という深い不信任感が蓄積されてきた。朝鮮戦争という凄惨な戦争があり、その戦争は未だ終結をみていない。そのため相互に敵国と考え、相手の存在すら認めない、相手は最後には戦争も辞さないであろうと想定することが日常化してき

時間はかかっても 交渉を通じて問題解決

こうした積年の相互不信にもかかわらず、トランプと金正恩は、①米朝間に新しい関係を築き、②朝鮮半島に平和の仕組みを築くことを、相手への信頼を基に成し遂げようというギャンブルに共同して取り組むことにしたのである。その結果として、201

7年秋頃には戦争間近と思われていた状況から大きく変化し、少なくとも戦争は起こらない、という安心感が広がった。米朝関係は、常に悪化の危険性をほらみながらも、2人の首脳の約束の重みのために、「交渉の継続」を模索せざるをえなくなっている。ま



は、シンガポールでの約束をもとに、アメリカのマイク・ポンペオ国務長官が北朝鮮を訪問し、より具体的な措置について方向性が示されることが期待された。しかし、実際には、具体的な成果は得られず、むしろ北朝鮮がアメリカの交渉姿勢を「ギャンクのような」と批判する事態となった。他方で、北朝鮮が上記の④にあるような措置を発表し、アメリカがそれを歓迎するというようなことが起っている。

半島非核化は段階的 現状は北朝鮮が得点重ねる

多くの専門家の立場からみれば、シンガポールでの首脳会談以前から、事務レベルで緻密な協議が重ねられた様子もなく、トランプの気まぐれによって行われた外交ショーの結果、狡知に長けた北朝鮮外交が一方的に得点を重ねているのが現状であろう。

実際に米朝間に信頼関係が築かれ、非核化へ向けた具体的な方策をとりうる状況に至るには、相当な時間がかかるであろうし、核問題全体の解決や朝鮮半島に安定した国際関係を築くことには、さらに長い時間がかかることは明らかである。従って、私たちも、時間がかかるということを前提にして、生まれてきた「相手を信頼してみる」、「交渉を通じて問題の解決を図る」という指向性を大事に育てていく必要がある。

韓国と北朝鮮との関係でも、武力行使を回避することへの強い合意がある。当面の間、朝鮮半島をめぐる国際関係においては、戦争や武力行使の脅しによる解決の方向に戻ることは困難であろう。つまり、朝鮮半島を含む東アジアに脅しによらない国際関係を作る試みが開始され、その延長上に、非核化と平和のメカニズムを達成できるかどうかを試されているのが現状なのである。